

第21回しながわ平和のための戦争展開催にあたって

草の根から戦争の真実を見つめ、平和の大切さを伝えることをめざして「しながわ平和のための戦争展」は21回を迎えました。

二度と戦争はしないはずの日本が、イラクに自衛隊を派遣し、憲法9条の見直しが語られています。私たちは、今こそ「過去の過ちを繰り返さないために」「歴史の真実を見つめ」みなさまとともに平和を守る人々の輪を広げていきたいと思います。

2004年8月 しながわ平和のための戦争展実行委員会

8月14日(土) 午後2時～

歌 <品川うたう会>

「折り鶴」梅原司平さんが1982年東京都原爆被爆者協議会25周年コンサートのために創った曲で、平和行進でよく歌われています。

「おじいちゃんのハーモニカ」14歳で青少年義勇軍として満蒙開拓団に参加したおじいちゃんの物語を歌にしたものです。

朗読 日本国憲法と詩で構成する「子ども達の未来は」<朗読集団「風」>

津布久晃司詩集「少年の戦争」より

やさしいことばで日本国憲法前文

高橋英男詩集より「八月の花に」

やさしいことばで日本国憲法第2章戦争の放棄 第9条

薄葉久子 作詩 「子どもたちの未来は」

お話 <残留日本人孤児>

1945年日本敗戦時中国に取り残され中国社会で苦難の人生を過ごし、ようやく日本に帰国して・・・

8月15日(日) 午後2時～

* コカリナ演奏 <品川コカリナアンサンブル>

「コカリナ」って知っていますか? くるみ、さくら等自然の気から作られた優しい音色を出す笛です。「コカリナ」の生みの親黒坂黒太郎さんは、広島「被爆樹」で、「コカリナ」を作って2002年広島平和宣言のCDを出しました。命の尊さを「コカリナ」に託して演奏します。「さとうきび畑」「童神」「死んだ男の残したものは」「ふるさと」

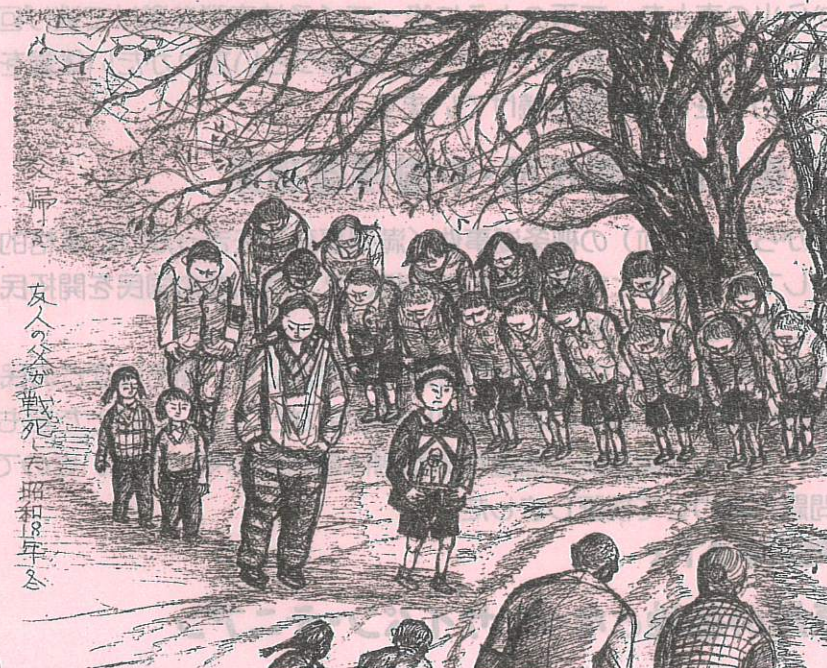
* 被爆体験のお話 関 千枝子さん

1932年生まれ。広島原爆時、女学校2年生。クラスは強制疎開地の後かたづけ作業に従事、級友は全滅。関はその時病欠、席を空け、3キロの自宅にいて助かった。このクラスの記録を、1985年「広島第二県女二年西組」(筑摩書房)として発表。元毎日新聞記者、現在女性ニューススタッフ。長年横浜にいたが、今年4月より品川在住。

しながわ 2004年 第21回

平和のための戦争展

見つめよう歴史の真実を



とき 8月12日(木)～15日(日)

10時～19時(最終日は5時まで)

ところ 品川区民ギャラリー(イトーヨーカドー大井町店8階)

大井町線 大井町駅1分

主催 しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先 03-5742-7563(西條) 03-3727-8382(扇谷)

イラクの子どもたちは今・・・

2003年3月米・英が始めたイラク戦争。集結宣言は出されましたが、未だにけが人や死亡者が続出するイラク。劣化ウラン弾の影響で奇形児や死産・流産が多くなったり、多くの子どもが小児ガンになっています。イラクの子ども達は今、どんな思いでいるのでしょうか。

品川と空襲

戦争中品川区は、荏原区と品川区に分かれていましたが、旧荏原区は、焼失面積97%都内第1位でした。品川の空襲の最大のものが昭和20年5月24日の城南大空襲と呼ばれるものです。当時13歳だった小島さんは5月24日夜品川区中延で空襲を受け、杖をついた祖母と弟の3人で、空から火の束となって雨のように降ってくる焼夷弾を避けて逃げ回りました。二度と戦争をしてはいけないという思いがつのって、そのつらい忘れがたい体験を絵にして若い人たちに伝えたいと百枚を目標に描き続けています。

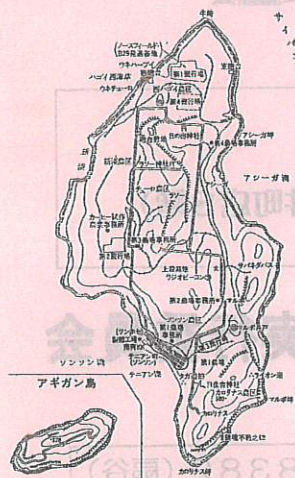
武蔵小山商店街と満蒙開拓団・中国残留孤児

1931年（今から73年前）の柳条湖事件（満州事変）をきっかけに本格的な中国侵略を進めた日本軍。そして対ソ防衛と食糧確保のために、27万人もの国民を開拓民として中国東北地方（旧満州）に送り出しました。

1945年、敗戦した日本軍は中国から引き揚げてきました。開拓民などの民間人を中国に放置したまま。残された開拓民の中には武蔵小山商店街から入植したひとたちもいました。入植者の6割以上が亡くなった開拓民の逃避行の悲劇は筆舌に尽くしがたいものでした。中国残留日本人孤児の問題とあわせて検証しました。

アジア太平洋侵略戦争の下で

本土空襲・原爆の基地となったサイパン・テニアン



太平洋の島マリアナ諸島は、「チャモロ」「カナカ」と呼ばれる先住民の島。しかし、16世紀スペインの侵略、さらに19世紀には代わってドイツが支配しました。第1次大戦に日本は参戦し、ドイツ領を占領しベルサイユ条約締結後、日本の委任統治領となりました。日本政府は「南洋庁」を置き、「南洋開発会社」が設立され、本土や沖縄から多くの移民が移り住みました。先住民に対しては「君が代」や「教育勅語」を強制、皇民化教育を進めました。1941年アジア・太平洋戦争の下で侵略地を拡大、戦局が悪化するにつれ、米軍の反撃によって激戦地となり、先住民や民間人を巻き込んで地上戦が行われ、日本軍は全滅し、多くの命が奪われました。

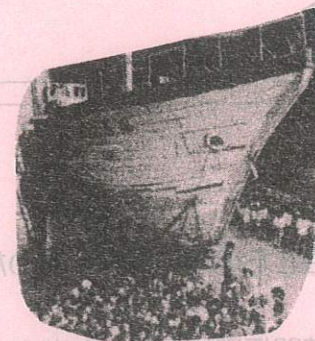
米軍占領後、テニアンは日本攻撃の基地になり、東京ほか本土の空襲、さらに広島・長崎に原爆が落とされるに至りました。



核兵器の廃絶をめざして

ーヒロシマ・ナガサキー

59年前のあの日、広島・長崎で何が起きたのか。子ども達は何を見たのか。写真・絵・子どもの詩で「あの日」のできごとを展示します。そして今も原爆被害・原爆死は続いています。直撃を受けたひとだけでなく翌日以降入市した人たち、残留放射能によるたくさんの被爆者達がいいます。今、ようやく「自分の疾病を原爆病と認定してほしい」と集団訴訟を始めた人たちもいます。



第五福竜丸・・・あの日から50年・・・

1953年3月1日マーシャル諸島ビキニ環礁で、アメリカは6回もの水爆実験を行いました。その第1回目に近くでマグロ漁をしていた「第五福竜丸」の乗組員らが被爆をしました。寄港後、久保山愛吉さんをはじめ、放射能の影響で11人もの乗組員が死亡しています。未だにガンと闘っている人もいます。「第五福竜丸」は今も、夢の島展示館から語りかけています。

戦時下の子どもと教育

集団学童疎開をはじめとして子ども達も戦争の影響で生活が大きく変わりました。親兄弟と離れての生活は、いつまで続くものやらわからず、心細い思いで暮らしました。その様子を絵で紹介します。

また、もっと小さい子たち、疎開に参加できなかった子たちは戦争が激しくなると連日連夜の空襲におびえて都会で過ごしました。その様子を写真で紹介します。

当時の軍国主義教育を深い反省を持って迎えた戦後の教育は明るく民主主義を貫くものだったのですが、最近は・・・

憲法9条を今こそ

1947年、日本国憲法が施行され、第9条に「戦争放棄」が掲げられました。しかし、1951年にアメリカと日本は「日米安保条約」を結び、1960年改定、さらに、1997年有事を想定した日米防衛指針、新ガイドライン決定など憲法に矛盾することが行われてきました。さらに今、その9条を変えて、戦争に協力しようと政府は考えています。とても危険な状態におかれているのです。

実物が語る戦争

戦争中、どんな生活・遊びをしていたのでしょうか。体験者が提供してくださった品物一つ一つが戦争の実相を訴えかけています。百聞は一見に如かず。実物が訴える声に耳を傾けてください。